

# 水 振 協 ニ ュ ー ス

(平成 24 年度号)

編集・発行 (公財) 滋賀県水産振興協会

草津市志那町柿根 1393-2

TEL 077 (568) 3451

平成 24 年度の事業結果は・・・

- ・「ニゴロブナ 1,635.1 万尾・ホンモロコ 1,279 万尾・ワタカ 36.9 万尾」を放流！
- ・「人工河川 アユ親魚 通常放流に加えて緊急追加放流」を実施！
- 「34 億尾のアユふ化仔魚」が琵琶湖へ流下！

平成 24 年度の放流量は、ニゴロブナ 1,635.1 万尾、ホンモロコ 1,279 万尾、ワタカ 36.9 万尾となり、計画を達成することができました。各漁業組合、水産試験場には、種苗生産、放流及び標識調査にご協力頂きありがとうございました。また、アユの人工河川管理運用事業につきましては、本年度は、緊急資源対策として、通常の親魚放流量 13,773.6 kg(天然親魚を含む)に加えて 7,000 kg の養成親魚を緊急追加放流しました。

## ニゴロブナ

2 cm 稚魚の放流尾数は、水田育成が 1,194.6 万尾(計画 800 万尾)、栽培漁業センター、北山田地先筏での生産放流が 127.6 万尾(計画 50 万尾)で、合計 1,322.2 万尾でした。また、平均体重 19.2 g の大型稚魚 59.1 万尾を栽培漁業センター、34.5 万尾を北山田地先筏で生産し、さらに滋賀県漁連から平均体重 21.2 g の大型稚魚 9.2 万尾を購入し、合計で 102.9 万尾(計画 95 万尾)を放流しました。その他に、滋賀県漁連では平均体重 19.9 g の大型稚魚 30 万尾を独自事業として放流しています。

**水田育成** 主に沿湖漁業協同組合の御協力により実施し、541 反の水田にふ化仔魚換算で 2,172 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2~3 cm の稚魚 1,194.6 万尾を琵琶湖に流下させました。水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は 55%でした。

また、ふ化仔魚 210 万尾(計画 200 万尾)を、西の湖周辺の水田(常楽寺地区) 52.3 反に放養しました。流下及び放流効果については、水産試験場が調査をしております。

**放流効果** 当協会では種苗放流の事業効果を知るために、平成 25 年 2~3 月の今冬季に、小糸、沖曳きで漁獲されたニゴロブナの標識調査を行っています。今冬季の放流魚の混獲率(漁獲魚に占める放流魚の割合)は調査中ですが、平成 24 年 2~3 月の冬季の放流魚の混獲率は 72.6%で、主に、水田放流の稚魚、沖合及び沿岸に放流した大型稚魚の順で多く獲られており、放流により大きな事業効果があることがわかります。

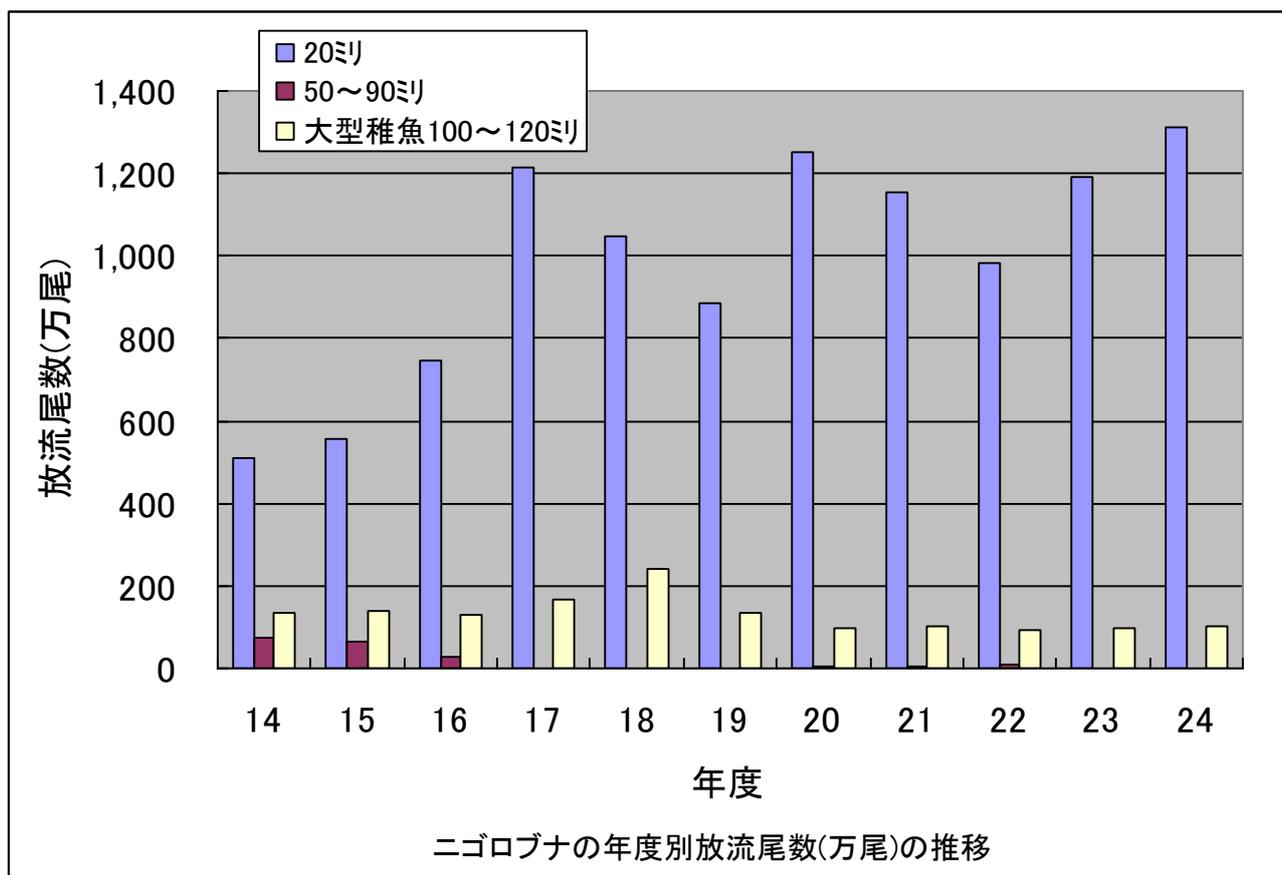
一方、平成 24 年 4～6 月の産卵期に主に針江沿岸帯で漁獲されたニゴロブナの標識調査では、混獲率は天然魚が 47.6% (昨年は 55.0%)、放流魚は 52.4% (昨年は 45.0%) でした。このことから、放流魚も産卵のため沿岸帯に来遊し、産卵繁殖に貢献していることがわかります。



ニゴロブナふ化仔魚を水田へ放養



ニゴロブナ大型稚魚の放流



## ホンモロコ

**水田育成** 平成 24 年度からは、平成 20 年度から実施してきましたふ化仔魚又は発眼卵を琵琶湖に大量に直接放流する方法ではなく、ニゴロブナと同様に、より放流効果の高い水田の生産力を利

用した育成方法に事業転換し、水田で 2～3 cmの稚魚に育ててから、中干時に琵琶湖へ放流しました。詳細につきましては、主に沿湖の土地改良区管内の農業者さんの御協力により実施し、860 反の水田にふ化仔魚換算で 3,229 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2～3 cmの稚魚 1,059 万尾(計画 800 万尾)を琵琶湖に流下させました。水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は 33%でした。

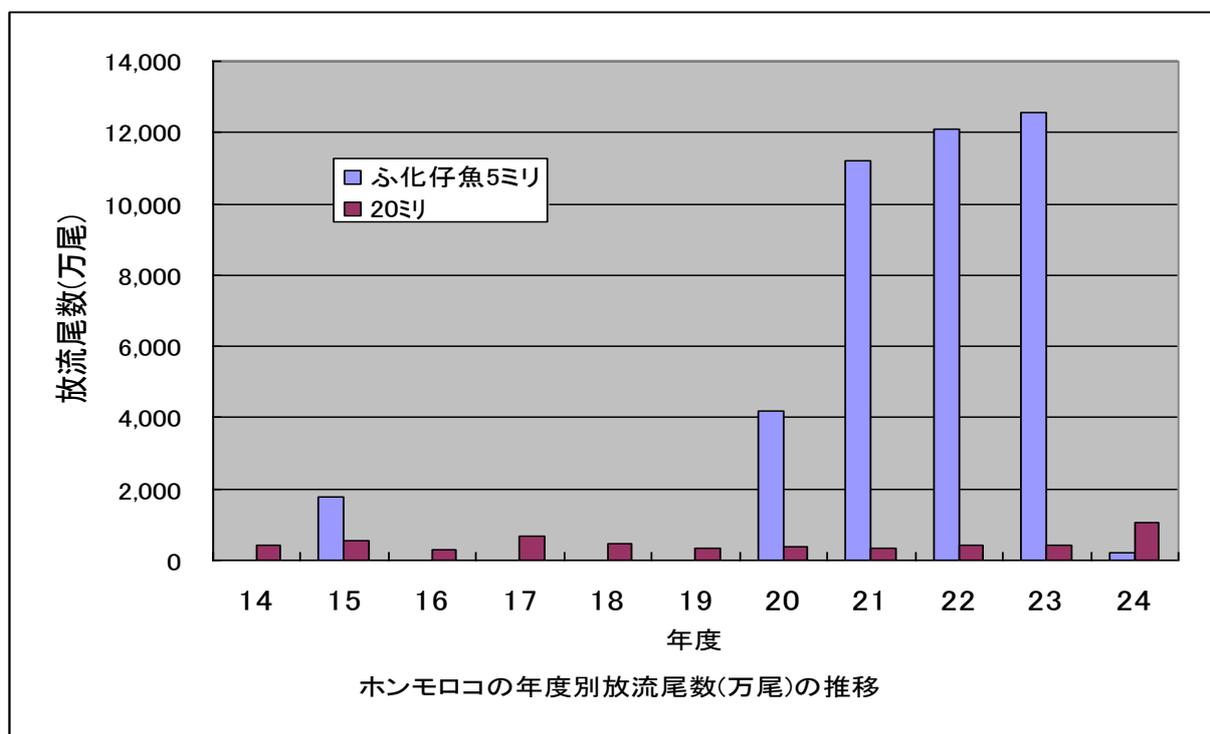
また、ふ化仔魚 220 万尾(計画 200 万尾)を、西の湖周辺の水田(常楽寺地区) 69.7 反に放養しました。流下及び放流効果については、水産試験場が調査をしております。



ホンモロコふ化仔魚を水田へ放養



中干後、水田から流下したホンモロコ稚魚(流下調査)



## ワタカ

栽培漁業センターでワタカ 5 cm稚魚 36.9 万尾を生産し、南湖に放流しました。

琵琶湖南部を中心に漁獲された 908 尾について標識調査を行い、その結果、漁獲されたワタカ

のうち放流魚は、94.0%を占めていることがわかりました。



ワタカ稚魚の放流



ワタカの標識調査

## アユ（人工河川管理運用事業）

平成24年度は、8月以降の少雨で、主要な産卵河川の多くが渇水状態になり、9月下旬の台風の降雨によって出水しても産卵遡上する親魚量も少なく、また、水産試験場の調査によると、10月下旬までの産卵量も数億粒程度で平年の数%と極めて少ないことが判明し、来季のアユ資源量の減少が危惧されました。このため、緊急資源対策として通常放流（親魚放流量13,773.6 kg）に加えて、10月中、下旬にかけて産卵可能な養成親魚7,000 kgを安曇川人工河川へ緊急放流しました。その結果、9月8日～11月23日にかけて合計で34億尾（前年比約1.75倍）のふ化仔魚を琵琶湖へ流下させました。



養成親魚の緊急追加放流  
（安曇川人工河川）



安曇川人工河川へ遡上する天然親魚の捕獲

（公財）滋賀県水産振興協会では、漁獲量のアンケート調査を、平成25年度も行います。大切な調査ですので、ご協力のほどよろしくお願ひします。